

令和 6 年度第 2 回青梅市健康づくり推進会議（要旨）

令和 6 年 8 月 1 3 日（火）

13 時 30 分～15 時 00 分

青梅市議会棟 3 階大会議室

1 開会（司会 健康課長小林）

・配布資料確認 ・大木会長、梅田委員、高野委員欠席
挨拶（健康福祉部長杉山）

2 意見交換事項（司会 神應副会長）

（1）市の実績評価調査について

ア 第 4 次青梅市健康増進計画および第 3 次青梅市食育推進計画にもとづく各課取組結果は、令和 5 年度の実績等の評価、5 年間の総合的な評価とも、各課回答によれば概ね順調に進捗している。（事務局）

イ 青梅市自殺対策総合計画の各課取組結果は、令和 5 年度の実績等の評価、5 年間の総合的な評価とも、各課回答によれば概ね順調に進捗している。（事務局）

【委員意見】

- ・そもそもできない取組を挙げて、結局できなかったのも別の手段に変えたような記載があるが、実質的に市でできないなら他の場所を借りるなど工夫すべきであって、場所の問題でやらない方向に持っていくのは違うのでは。
- ・周知をしただけでの評価でなく、周知した後の周知先での結果を踏まえて、評価されるべきである。
- ・朝食を食べてこない児童が多いという話があるが、いくら親に周知をしても、市が家庭を支援する制度がない限り意味がない。

【事務局意見】

- ・目標が抽象的で担当者の主観になってしまう部分もあり、また、数が多い。なるべく数値で検証できる目標を立て、客観的に評価できるようにする必要があると思う。

（2）新計画の施策体系等について

市民意識調査等で抽出された課題を踏まえ検討していく。（事務局）

【委員意見】

- ・課題が多すぎる。どのように集約されるか。
- ・行政なので、普及啓発や情報提供は、評価の仕方に問題があるとしても継続的にやっていかなければならない。また、関係機関と連携しながら取り組んでいくということが重要。
- ・健診を受けないと健康寿命日本一から遠ざかる。健診を受けるメリット、受けないデメリットを仕組みにできないか。
- ・子宮頸がんワクチン等、子どもの意識が低いものの周知では、別のイベントと同時開催するなどして参加率を上げる方法がある。

【事務局意見】

- ・今「うめPON」というアプリを取り入れ、インセンティブを使いながら運動習慣を身につけていただく取組がある。

(3) 自殺対策計画素案について

国の自殺大綱に合わせ作成したものである。(事務局)

その他の総括意見

【委員意見】

- ・中学校などで実施すべき授業などについて、この委員会の提案で予算を確保し、年に何回か実施するのを三師会で請け負うようにできないか。睡眠、健診、食事、運動、たばこ、お酒などは私の得意分野であり、三師会であれば、歯科、薬物についても対応できる。

【事務局意見】

- ・健康づくりは市だけが何かをするというわけではなく、それぞれの団体ごとの活動が1つのムーブメントになる。できることについては対応していきたい。

3 その他

次回は令和6年10月29日火曜日